

会議名	平成 25 年度図書館協議会議事録
日時・場所	平成 26 年 3 月 19 日 (水) 午前 10 時開会・同 11 時 10 分閉会 於：市立図書館視聴覚室 移動後、水原中学校市民図書室視察
出席者	(委員) 澁谷委員長 大野副委員長 杉本委員 八木委員 桃井委員 土岐委員 (6 委員出席) (事務局) 田村教育長 見原生涯学習課長 星生涯学習課長補佐 遠藤副館長 中島主任 渡邊主任 (計 6 名) (傍聴者) 0 人
議題	議題 (公開) (1) 平成 24 年度図書館統計の実績報告について (2) 平成 25 年度図書館事業実施報告について (3) 平成 26 年度図書館事業計画 (案) について (4) 水原中学校市民図書室の概要について
課長	定刻になりましたので、阿賀野市立図書館協議会を開催させていただきます。本日は 8 名の委員がおられますが、浅野委員と西野委員が欠席とのこと。桃井委員は遅れるとの連絡があり、始めていてほしいとのことですのでこのメンバーで、始めさせていただきます。本日の会議は、1 時間くらいここで話をした後、水原中学校市民図書室の視察を行うということで併せてよろしく願いいたします。 市民図書室の反響が大きく、新潟県人会から写真を送ってほしいと要望がありました。いろんな意見をいただければと思います。 澁谷委員長にはこの会とは別に、いろんな会議に出ていただきまして、ありがとうございます。なお、録音をしておりますが、公開ということですので。こちらで、後でまとめますのでよろしくお願いいたします。 有意義な会にしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。 では開会に先立ちまして田村教育長がごあいさつ申し上げます。
田村教育長	朝からご参集いただきまして、ありがとうございます。5000羽の白鳥も体力をつけて北帰行に旅立ちました。1年間の図書館活動を振り返り、率直な意見をいただいて来年度の方針を固めていきたいと思ひます。

せっかくの機会でありますので、少しお話をしたいと思います。

図書館には公共図書館と学校図書館のふたつがありますが、このふたつの図書館の精神というのは共通するのが多いと思います。特に連携ということに関しては、阿賀野市は限られた予算の中で、人的にも限られた中で、いろいろと手を取り合って歩んでまいりました。子ども読書推進活動においても県内に先駆けて取り組んでいただきました。昨年の学校図書館大会でも、公立図書館部門では大いに貴重な意見をいただきました。

来年度からは、水原公民館にあった水原図書館を水原中学校の中に実質的に移しまして市民図書館として位置付け、学校活動あるいは地域との連携といった市民との交流ゾーンの中で新しい展開を考えております。その中には絵本の読み聞かせコーナーもあります。皆さんそれぞれ深い関わり合いをお持ちだと思いますが、今日はあらためて紹介したいと思ったのが、学校でも非常に頭を悩ませている、不登校の子どもたちのことです。その中には1か月、2か月というレベルではなく、何年間もいろいろな事情で登校できず、外の世界とつながっていかうと、家族共に苦しんでいる子どもたちがいるわけでありまして、阿賀野市はいろいろと取り組みはしています。そういった中で、例えば、小学校を3年間不登校で苦しんでいた子どもが絵本作りを通して自分自身の気持ちやいろんなものを整理し、構築し、そして外に出ていく、そういう素晴らしい取り組みが出てきています。また、福島からの原発避難で自然の家に受け入れ、その後は山手小学校に在籍した子どもが、不登校相談員と一緒にあって、創作した素晴らしい絵本もあります。金魚鉢の中でおびえている金魚が自分で、外の世界の代表が猫で、対話をしながら友達になって、そして外の世界とつながって自分を見直していくといったストーリーです。以前の柳田邦男先生の講演会にも、また、美智子皇后が本、読書は自分と外とをつなぐ架け橋だというお言葉を発せられて感銘を受けたところであります。本との出会い、図書館というものは一人ひとりの子どもたち、そして地域にとってとても大きな役割を持っています。ただ、私たちがどういうふうな角度付けをし、地域にあった形に引き出していくか、これは、ひとえに図書館協議会の方たち、学校関係者、あるいは地域の方たちの協力を得て良いものを形づくらねばならないかなとあらためて考えております。もう一つ、水中の市民図書室の構想をするときに背中を押されたなと思うのは、当時の片山総務大臣です。彼は、学校図書館や地域図書館の役割というものに非常に深い造詣を持っておられて、光をそそぐ交付金という実際の事業として国の財政支出として、司書の配置を行うとか、いろいろな政策を推進しました。

阿賀野市はまだまだですが、スタッフが生徒たちや市民にいろんな言及

見原課長	<p>してくれる、そして絵本の読み聞かせの場もある、地域のボランティアの出入りできる形を考えております。長期的に見ても、すぐ目の前を見ても、市民図書室の役割は大きいものがあります。</p> <p>今日の視察は委員の皆さんからよく見ていただいて、中身を良くしていくための助言をお願いしたいと思います。限られた時間ではありますが、率直な助言、意見をよろしくをお願いをしたいと思います。</p> <p>それでは、委員長さんから次第に沿いまして、よろしく願いいたします。</p>
澁谷委員長	<p>はい。時間的にも限られておりますので、よろしく願いいたします。早速議題に入ります。平成24年度図書館統計の実績報告について、事務局から説明願います。</p>
遠藤副館長	<p>(1) 平成24年度図書館統計の実績報告について説明を行う。</p> <p>(2) 平成25年度図書館事業報告について</p>
澁谷委員長	<p>これにつきまして、何かご質問などあればどうぞ。</p> <p>無いようですので、次の(3)平成26年度図書館事業計画についての説明を事務局から願います。</p>
遠藤副館長	<p>(3) 平成26年度図書館事業計画について説明を行う。</p>
澁谷委員長	<p>これにつきまして、何かご質問などあればどうぞ。</p>
土岐委員	<p>細かい質問になるかもしれませんが、水原中学校の市民図書室ですが、郷土史資料も積極的に収集しますとありますが、どの辺までイメージされているのでしょうか。</p>
遠藤副館長	<p>今のところどのくらいまでといった具体的なものはないのですが、水原図書館が他に比べて早く開館したということもあって、郷土史料が多くあるということ、加えて全県に向けての資料をカバーしていきたいということ、また、いわゆる古文書も入れられればいいのですが、文化行政係とも調整を取りながらと思っております。郷土に直接関係あるいは周辺資料も充実できればいいと考えております。</p>
土岐委員	<p>そうしますと、博物館の収集イメージと重なるものではないのでしょうか</p>

	か。
遠藤副館長	重なるものもあると思いますが、県立図書館、新発田市図書館などはそういったものもお持ちですし、そのようなイメージでしょうか、博物館や文書館のような核に入っていくものより大きな視線といいましょうか、少しゆるいところで見なければと思います。活字資料が中心になるかとも考えています。
土岐委員	はい。去年も言ったと思うのですが、私は新発田の方で古文書をやっていますので、そのイメージでお話をしますと、新発田の場合、旧家の文書が図書館に寄贈あるいは寄託されることが多いのです。同じように阿賀野市でも編年史を作った際は調査したようですが、各家の蔵とかにあるものが心配ですので、博物館ともタイアップしながら、そこに行けば分かりますといったようにしていただければと思います。
遠藤副館長	はい。図書館でもそういったことはしていかなければならないことだとおもいます。博物館、資料館とも連絡を取りながらと考えます。所在の把握ですが、水原の場合は、編年史の際とその後もある程度把握できているかと思っています。笹神が一番新しい笹神村史ということで大々的に調査をしたので、大体は把握できていると思います。安田も町史と博物館で大体把握できていると思います。ポケットになっているのが京ヶ瀬地区です。古文書クラブの方とか文化行政係と話をしているところですが、今日明日といったことではないのですが、当たってみるといことは事務局レベルでは話しているところですが、それも、一括がいいのかどうかを含めて、提供できるような、保存活用できるような形に持っていければと考えているところです。
澁谷委員長	他に質問・意見があればお願いします。
土岐委員	もう一つ要望ですが、方針に生涯学習の一環をになっているとありますが、仕事を終えてある程度の年齢になると、やる事がなくなる、そういう人たちに生涯学習の機会があるということを積極的に打って出れないものかと思っています。市内の団体への支援などもできないものかということで、方向として明確に打ち出していきたいと思っています。
見原課長	団塊の世代の皆さんが活躍する場を設けることが課題です。生涯学習の

	<p>場を提供することはもちろんですが、男性が集まらないというのが現状です。健康づくりのグループで男性が初めてできたくらいです。</p> <p>ご紹介することはもちろんですが、皆さん得意なものをお持ちですので、いろんな技とか、人材バンクのようなものとか、いろんな形で進めていかなければならないと思っています。</p>
土岐委員	<p>図書館だけでは大変でしょうから、全体で考えてほしいと思います。</p>
見原課長	<p>そうです。ボランティアでも学校でも必要としていることをもう少し調べていく必要があると思うので来年度は、頑張ってみたいと思います。</p>
田村教育長	<p>土岐委員が言われたのは、高齢者というタッチではなく、もっと子どもと関わることや地域と関わることで自分の大事にしてきたことを伝えることや交流することだと思います。大事なことです。施策として大きく推進するという事はなかったのですが、これからのことを考えると、今は学校から帰るといっても集団で帰ることはない、地域のお年寄りや地域の方との関わる以外に安心が保てないというか、人間の数が薄くなってきている中での支え合いとか、前向きの交流を考えていかなければならないと思います。時代が来ていると受け止めています。</p>
澁谷委員長	<p>他に質問・意見があればお願いいたします。なければ、次の（４）水原中学校市民図書室の概要について、事務局説明願います。</p>
遠藤副館長	<p>（４） 水原中学校市民図書室の概要について説明を行う。</p>
澁谷委員長	<p>質問・意見があればお願いいたします。</p> <p>なければ、現地視察に移りたいと思います。これで今日の会を閉じたいと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> <p>*公用車で移動し、現地視察。</p>

問合せ

生涯学習課

syogaigakusyu@city.agano.niigata.jp